

令和元年第2回東広島市議会定例会について

1 会 期

令和元年6月7日（金）から6月25日（火）まで（19日間）

2 一般質問

(1) 日 程

令和元年6月18日（火）から6月21日（金）まで

(2) 質問者、質問項目（教育委員会関係）

別紙のとおり

3 議案（教育委員会関係）

(1) 報告事項

ア 専決処分の報告について

イ 公益財団法人東広島市教育文化振興事業団の経営状況について

ウ 平成30年度東広島市繰越明許費繰越計算書について（教育委員会関係分）

(2) 議案

ア 教育委員会委員の任命の同意について

イ 第2期東広島市教育振興基本計画の策定について

ウ 財産の取得について

エ 請負契約の締結について

オ 東広島市立学校設置条例の一部改正について

カ 東広島市市民体育施設設置及び管理条例及び東広島市B&G海洋センター設置
及び管理条例の一部改正について

キ 東広島市立幼稚園保育料等徴収条例の廃止について

ク 令和元年度東広島市一般会計補正予算（第2号）（教育委員会関係分）

令和元年第2回東広島市議会 教育委員会関係一般質問

会派	質問者	質問項目	担当	答弁者
街おこしをめざす会	大谷忠幸	<p>1 東広島市の街おこしについて</p> <p>(2) 東広島市からの人的資源の流出を防ぐ。</p> <p>ア 東広島市は、日本一の教育市であると自負しておられるが、何のための日本一の教育市なのかについて伺う。</p> <p>イ 東広島市の優秀な人的資源を流出させるための教育を施しているのであれば、明らかな教育理念の矛盾を内包している。この点について伺う。</p> <p>ウ 東広島市に対する愛郷心を育む教育の必要性について伺う。</p>	指導課	教育長
公明党	坂元百合子	<p>3 2020年に向けた文化プログラムの推進について</p> <p>(1) 文化プログラムは2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、各種団体が行う文化芸術イベントだ。</p> <p>ア 文化芸術の振興のために若い世代が本物の芸術を鑑賞し体験できる環境づくりを支援したいと考えるが、市の考えを問う。</p> <p>イ 地域の文化芸術に携わる人材や大学を活用して幼少期から優れた才能を発掘・育成する拠点が必要と考えるが、市の考えを問う。</p> <p>ウ 文化財を後世に継承するため、保存や修理に携わる人材の育成を支援すべきと考えるが、市の考えを問う。</p> <p>エ 五輪を一過性のイベントにせず、遺産を残し、日本の文化政策の強化につなげたいと思うが、市の考えを問う。</p>	文化課	生涯学習部長

答弁内容（令和元年第2回定例会）

■質問者 大谷議員 ■担当 学校教育部
■質問事項 1 東広島市の街おこしについて

（2）東広島市からの人的資源の流出を防ぐ

- ア 東広島市は、日本一の教育市であると自負しているが、何のための日本一の教育市なのかについて伺う。
- イ 東広島市の優秀な人的資源を流出させるための教育を施しているのであれば、明らかな教育理念の矛盾を内包している。この点について伺う。
- ウ 東広島市に対する愛郷心を育む教育の必要性について伺う。

■質問要旨

- ア 東広島市で生まれ育った子供たちが、高校を卒業すると両親の住む実家を離れて、東京、京都、大阪等々に出て行ってしまい帰郷しないケースが多い。これは、明らかに人的資源の流出であり大きな問題と考える。東広島市は、日本一の教育市であると自負しているが、何のための日本一の教育市なのか伺う。
- イ 日本国のための人材を輩出するのは結構だが、肝心の東広島市が留守になっているように感じる。東広島市から優秀な人材を流出させるための教育であれば、明らかな教育理念の矛盾を内包している。市の考えを伺う。
- ウ 東広島市に対する愛郷心を育む教育についてどのように捉えているのか伺う。

●答弁

教育は人格の完成を目指して行われるものであり、学力だけでなく、自分の個性や長所を生かして世の中のために尽くそうとする人間を育てることが大切であると考えております。

グローバル化の進展や人工知能に象徴される技術革新など、変化の激しい先行き不透明なこれからの社会を生きる子供達には、生きて働く「知識・技能」や未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、そして学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力や人間性等」を育成することが求められています。

そして、このような資質・能力を身に付けさせるためには、子供達一人一人が自分の考えを持ち、優劣の差を乗り越え、課題解決に向けて本気で学び合い、新しい学びを創造するような授業を目指す必要がございます。そして、そのような授業が、東広島市のどの学校、どの教室においても見られる、それが本市の目指す日本一の教育の姿の一つであると考えております。

また、学校内だけでなく、自らが生活し成長する場である地域というフィールドの中で、豊かに学ぶことも大切であると考えております。

これまで、地域の方々には、朝夕の登下校の見守りをはじめ、授業におけるゲストティーチャー、学校行事への参加等、様々な場面で学校の教育活動にご協力いただいております。

しかし、それに頼るだけでなく、地域のためにできることは何かを考え、地域を良くするために頑張ろうとする志をもった子供が育っていることもまた、本市の目指す教育の姿でございます。

このような教育の実現を目指す中で、これからの社会をたくましく生きる力を持ち、東広島市や日本を支え、国際的に活躍できる人材を育成することが、日本一の教育都市を目指している理由でございます。

次に、「本市で育った優秀な人材を市外へ流出させるための教育を施しているのであれば、明らかな教育理念の矛盾を内包しているのではないか」というご質問についてでございます。

本市の子供達は、「なりたい自分になる」ために、様々な夢や志を持ち、日々学習やスポーツ等に一生懸命取り組んでいます。「医者になって、病気で苦しんでいる人を助けたい」「スポーツ選手になっ

答弁内容（令和元年第2回定例会）

て、多くの人に勇気と感動を与えたい」「ケーキ屋さんになって、みんなに美味しいと言ってもらえるケーキを提供したい」等、子供の持つ夢や志は様々です。学校は、こうした子供達を応援すると共に、子供達が「夢や志を持ってがんばることの素晴らしさ」や「あきらめずに努力することの大切さ」を実感する場でありたいと考えております。

そして、「夢や志」の実現を追い求めた結果、活躍の場が市外や海外へと広がることは、「その子らしく、自分の人生を歩んでいく」上で、望ましいことでもあると考えております。

もちろん、その活躍の場が、東広島市であってくれば喜ばしいという思いはございますが、将来、様々な場で活躍している子供達の心の中に「今の自分があるのは、東広島市のあの学校で、あの先生と、あの仲間と学んだからだ」と、東広島市の学校で学んだことが心の糧となり誇りとなっている、そんな子供達を育てたいと考えております。

次に、「東広島市に対する愛郷心を育む教育の必要性について」でございます。

子供達が、故郷東広島の素晴らしさを実感し、故郷を愛する心情や態度を養う教育を推進することは、本市の将来を担う人材を育成する上で、大変重要なことと認識しております。

そして、そのためには、地域における自然体験や社会体験の場が必要不可欠であり、その中で成功や失敗、そして感動する等の体験を得ることによって、人として大きく成長すると考えております。

本市では、一校一和文化学習に代表されますように、東広島市や地域に伝わる伝統や文化等を教材化し、そのよさや豊かさ、伝統や文化を継承する人々の思い等を学ぶ学習を大切に、市立の各学校において取り組んでいるところでございます。

また、子供達がアイデアを出し合い、道路や近隣の公園の清掃をしたり、学校で育てた花を地域に届けたりする等、独自の取組を行っている学校もございます。

さらに、総合的な学習の時間を核として、「地域を学び、地域に学ぶ」学習を展開しております。

子供達が、地域が抱える課題等について調査し、解決方法を考えたり、インタビューによって、地域の現状や思いを捉え、それらをもとに地域の活性化に向けた提案を、文化祭で行ったりする等の学習を行っております。

このような学習に取り組んできた結果、昨年度の全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の質問項目である「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校で57%、中学校で52%でございました。これらの結果は、全国・県の平均を上回るとともに、4年前と比較して、小学校で約15ポイント、中学校で約20ポイント向上しております。

今後も引き続き、郷土東広島について学び、故郷の自然や環境を体験し、人々と触れ合う教育実践を計画的に実施する中で、郷土を愛し、その発展に寄与しようとする心情を着実に育ててまいりたいと考えております。

答弁内容（令和元年第2回定例会）

■質問者
■質問事項

坂元議員

■担当

生涯学習部

2 2020年に向けた文化プログラムの推進について

（1）文化プログラムは2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、各種団体が行う文化芸術イベントだ。

- ア 文化芸術の振興のために若い世代が本物の芸術を鑑賞し体験できる環境づくりを支援したいと考えるが、市の考えを問う。
- イ 地域の文化芸術に携わる人材や大学を活用して幼少期から優れた才能を発掘・育成する拠点が必要と考えるが、市の考えを問う。
- ウ 文化財を後世に継承するため、保存や修理に携わる人材の育成を支援すべきと考えるが、市の考えを問う。
- エ 五輪を一過性のイベントにせず、遺産を残し、日本の文化政策の強化につなげたいと思うが、市の考えを問う。

■質問要旨

- ア これまでも若い世代が本物の芸術を鑑賞し体験できる環境づくりに取り組んでいるが、2020年に全国で開催される「日本博」の成功に向け、より一層芸術に触れる機会を増やすための取り組みが必要であると考えているが、市の考えを問う。
- イ 幼少期から優れた才能を発掘・育成するためには、小・中学校における芸術鑑賞や、東広島芸術文化ホールくららで行われる公演といった、芸術に触れる機会がさらに必要と考えるが、市の考えを問う。
- ウ 市内にある文化財を後世に継承するためには、保存や修理に携わる人材の育成が必要と考えるが、市の考えを問う。
- エ 文化政策の強化につなげるためには、東京五輪・パラリンピック後も継続できる取り組みが必要と考えるが、市の考えを問う。

●答弁

来年、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックは、改めて言うまでもなく、世界中から多数のアスリートや要人、観客等が集まるとともに、海外メディアにより広く報道されることとなる、世界中から注目されるイベントです。

そのため、開催都市以外の地域においても、様々なスポーツ、文化などを実施し、その魅力を発信するとともに、そうした活動を地域活性化に繋げていく絶好の機会であります。

ご指摘の「日本博」につきましては、東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成等を促すため、政府や地方公共団体等が連携して、日本の美を体現できる文化芸術事業を開催するものです。

現在、市では、この「日本博」への参画はしていませんが、その目的である文化芸術の魅力発信は、市の文化芸術振興のコンセプトにも掲げており、その精神を踏まえ、文化芸術活動の拠点である東広島芸術文化ホールくららを中心に、国内外の優れた文化や芸術の鑑賞イベントを開催するとともに、現在建設中の新美術館を来年度開館した後は、2つの施設の相互連携を図りながら、文化・芸術・交流ゾーンとしての魅力を高める環境づくりに取り組んで参ります。

また、これらの中核施設を拠点に、文化芸術活動を若い世代に広めるため、小中学校を訪問して実施する出前美術館や出前博物館、音楽普及活動のアウトリーチ活動などに大学と連携して取り組んでおり、こうした活動を継続し、引き続き、将来を担う人材を育む環境づくりを進めてまいります。

一方、「文化財の後世への継承」につきましては、ご指摘にありますとおり、歴史文化遺産を保存継承する担い手や、文化財の保存技術を有する職人も高齢化が進んでおり、後継者となる人材の育成が重要な課題となっております。

本市におきましては、指定文化財の修復の際に、建築士や歴史的建造物の修復工事にあたっている事業者等を対象に、保存技術の研修の場を提供したり、大学を対象に、授業での実習の場の提供を行うと

答弁内容（令和元年第2回定例会）

ともに、伝統文化の後継者育成に係る支援制度を整備し、後継者育成の支援をしているところでございます。

そして、こうした芸術振興や、文化財の後世への継承にかかる地道な活動を積み重ねつつ、文化・芸術活動に取り組んでおられる地域住民や地域の文化活動団体との連携を深める中で、東京オリンピック・パラリンピックのコンセプトである「すべての人が自己ベストを目指す」「多様性と調和」「未来への継承」といった考えに基づき、若い世代からお年寄りまで幅広い世代が文化芸術に関わることのできる施策を、今後も継続して参りたいと考えております。